

## 進学経験共有

### A班 党哲

#### 個人状況紹介:

私は2021年半ばに中国で日本語の独学を開始し、その前にTOEFL試験を終え。2021年末には亜細亜友之会外語学院のオンライン授業を受け始め、その時私の日本語レベルはN4くらいでした。2022年4月に来日し、亜細亜友之会外語学院で対面授業を受けました。その時の日本語レベルはN2ぐらいでした。2022年末に大学に合格しました。

#### (1) 日本語の学習について

/日本語を独学で学ぶ速度は非常に遅いので、できるだけ早く先生に従って授業を受ける必要があります/クラス内で日本人教師とコミュニケーションをとり、実際の日本語の聞き取りと話し方に慣れてください  
/EJU 読解・聴解・聴読解:問題集をやる [時間内で完成する]  
/面接は会話力を向上させる良い機会です。

→福原先生は面接に非常に厳しく、面接本番の1週間前はほぼ毎日午後に面接練習をし、暗記できなければ帰宅も許されないほどでした。語彙を調べ、面接原稿を暗記することで、自然と言語感覚が鍛えられます。

/EJU 記述:複雑な文法は必要ないので、本を購入して例文を読むようにしました。論理が明確で、単語と文法を正しく使えば上達も早いです。

/日本留学試験で最も重要なのは間違いなく日本語です。他の科目ばかりに時間をかけて、日本語を疎かにするようなことをしないでください

/専門分野の入門書を事前に読むことをお勧めします(ネットで適切な本を見つけてください、中古のメルカリが非常に安いです)、読解力を向上させながら、内容は面接や小論文に反映されやすく、加点される可能性があります。

#### (2) 英語学習について

/来日前に英語のスコアを取得することを強くお勧めします  
→私の周りには日本に来て英語試験を受ける気力もやる気も無い人が多いです。  
/英語のスコアは、高い点数にしろ、低い点数にしろ、点数があることが重要です。

#### (3) 総合科目と数学について

/問題集をたくさんやる + 間違った問題をもう一度やる。  
/EJU試験日が近づいてから準備すると間に合わなくなります [少なくとも総合科目は間に合わない]

#### (4) 一日のスケジュールについて

個人的には6月の日本留学試験に向けて準備することで一番闘志が湧きます。初めての試験では不安もモチベーションになります。

基本的には午前中に学校の授業を終えた後、午後は寮や自習室で留学試験の勉強をすることが多いです。私のおすすめは学校の自習室で、学習の雰囲気がとても良く、自然と学習に没頭できます。午後の勉強時間は長くないので、自習室は6時頃に閉めますので、先生が鍵を閉めるまで勉強するのをお勧めします。

#### (五)一些杂談

授業担当の先生に積極的に協力していれば、志望理由書や面接は基本的に大丈夫です。福原先生には3回も志望理由書を直していただきました。初めて書いた時は全くうまく書けず、とても難しかったのですが、書いていくうちにスムーズに書けるようになりました。先生の要求に従って真面目に準備すること。福原先生のご指導のもと、志望理由、学習計画、卒業後の計画の3点を書き、この3点を整理できたところで志望理由書全体の基本骨格が決まり、残りは自己流に近い内容になりました。毎回事務室で1~2時間、福原先生と一緒に頭を悩ませて考えていますが、事務室を出るたびに、また一つ問題が解けたという安堵感を感じます。また、福原先生は情報検索力がとても高く、会うたびに新しいアイデアを出してくれたり、最新情報を教えてくれたりしていましたので、応募書類や面接の準備にはとても役立ちます！しかも文系・理系に限らず(笑)、面接も同じです。

小論文に自信のない学生は、思い切って口頭試問に挑戦してみましょう。私自身、文章を書くのが苦手なので、明治大学が学内試験を小論文からオンライン口頭試問に変更した後、すぐにチャンスを掴み出願しました。

#### \*オンライン口頭試問について(私の場合):

まず、PC画面で共有された約1500字の記事を直接読む問題です。画面共有なので文字数が非常に小さかったです。一回目は制限時間内に音を出して読みました。時間制限があり、知らない単語は飛ばして読みました。読書中は発音のことばかり考えていて、内容は全く頭に入っていません。2回目は限られた時間内で記事を黙読する問題です、緊張しすぎて読み終わませんでした。時間が過ぎると、面接の教授が止めて口頭で質問を始めます。質問は1回だけ言われ、考える時間はなく、すぐに答えなければいけませんでした。もちろん答える時に、記事を読むことができます。質問は全部で2つありますが、詳細は思い出せません。おそらく最初の質問は記事の内容の説明であり、2番目の質問は著者の見解を要約し、私自身の見解を述べ、例を挙げて他人を説得する(記事の内容に関連する)。この2つの質問に答えるとき、私は記事の中から役に立つ言葉を必死に探し、答えるのに必死でした。最初の質問では、私の言った内容が少なすぎると感じたので、私なりの例を加えました、二番目の質問を聞いて例を挙げたときは、少し苦笑ってしまいましたが、それでも適当な例を挙げました。その後、話が長すぎたので、次に何を言おうか考えていると、教授に「時間切れです」と遮られ、その時初めて、まだ時間制限があることに気づきました。ですから、面接時に教授が聞き飽きるかどうかは気にせず、自分の考えをできるだけ表現したほうがよいです。また、「周りの例だけを引用するのはよくないのではないか」とあまり気にせず、私立学校の先生方によると、実際、法律などの科目では、今でも教授は生徒の人生観察力を重視しているそうです。以上がオンライン口頭面接において私の体験談です。

/面接原稿では、質問される可能性のあるすべての問題を深く掘り下げる必要があり、特に専門知識や個人的な意見に関わる部分は、面接中に専門分野の最新の出来事や発展傾向について言及することも重要です。なんと言っても自分の本当な考え方をそのままに伝えることも非常に重要です。何故なら準備していない質問をされたとき、または緊張して準備した内容を忘れてしまったときに、自分の本当な考え方を言つたら危機を救うことができるからです。たとえば、面接の最後に日本文化のどの部分に興味があるかと尋ねられたとき、私は「ジャニーズが好きです」、「だから音楽の著作権保護についてとても関心を持っています」、「卒業後はソニーミュージックに行きたいです」とごく自然に答えました。

ps 面接が終わった時、教授が笑顔であれば、合格する可能性は大きいです。

2022年4月に亜細亜友之会外語学院が推薦した文科省修学奨励金をいただきました、2022年度の外国人入試で優秀な成績を収めたことから、文科省予約奨学金通知も届きました。これらの成果は、私の普段の努力と切り離すことはできませんが、学校の先生方のたゆまぬ指導と助けがもっと大きいと思います。私たちの学校がますます良くなり、より多くの生徒が亜細亜友之会外語学院で留学夢を叶うように祈ります。